

数学

東京科学大学 理工学系 (前期) 1/1

<全体分析>

試験時間	180 分	解答問題数	5 題
------	-------	-------	-----

解答形式

全問記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・**やや減少**・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

すべての問題が分題化され、点をとりやすくなった。

誘導の意図を汲み取れたかどうかで大きく差がついたと思われる。

昨年よりも解きやすくなったが、それでも十分に難しく、実力差がつくセットである。

その他トピックス

3年連続出題されていた「複素数平面」の問題はなかった。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	積分法	数学Ⅲ	逆関数を題材にした積分法の問題。 逆関数のグラフの性質に着目すると、見通しがよくなる。	やや難
2	空間ベクトル	数学C	座標空間内の四面体を題材にした問題。 (1)→(2)→(3)と誘導になっているが、その流れにのれた人は決して多くないと思われる。	標準
3	確率 極限	数学A 数学Ⅲ	コイン投げを題材にした確率と極限についての問題。 (4)まで丁寧に誘導されているため、最後まで解き切りたい。	標準
4	三角関数 数列 極限	数学Ⅱ 数学B 数学Ⅲ	フィボナッチ数列と tangent を題材にした問題。 (1)→(2)→(3)と誘導されているが、3よりも誘導にのるのは難しい。	標準
5	微分法	数学Ⅲ	(1)はグラフを描く問題。 (2)では、与えられた等式において変数を分離すると(1)に帰着される。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

典型的な問題を確実に解けるようにしたら、難しい問題に挑戦しよう。わからない問題があってもすぐ解答を見るのではなく、粘り強く考える習慣を身につけたい。また、解答を見た場合でも、その内容を理解して満足するのではなく、後日その問題を最後まで解き切ってもらいたい。